

地理歴史科「世界史 A」学習指導案

日 時 令和 3 年 11 月 10 日 (水)
対 象 第 1 学年

1 単元名

第 1 章「諸地域世界の形成と交流 4 ヨーロッパ世界」(要説世界史改訂版 山川出版社)

2 単元の目標

- ・歴史の舞台である自然環境とヨーロッパの国々の位置と名称を把握するとともに、各地域の気候を理解した上で、各国の歴史との関連を考える。
- ・西ヨーロッパ世界は、イスラーム勢力やノルマン人勢力の影響を受けて封建社会が成立したことを理解し、王権と教皇権の推移を把握することで、西ヨーロッパ世界の形成について整理する。
- ・ビザンツ帝国のギリシア化とイスラーム勢力の侵攻を受けて領土が縮小していく様子を理解し、ビザンツ帝国が支配していた地域に、スラヴ人やアジア系民族、イスラーム勢力など多様な人々が入り込み、東ヨーロッパが多様な性格を持つ国家となったことを考察する。
- ・農業技術の革新による生産力向上と商業や都市の発達が生産力向上と商業や都市の発達が西ヨーロッパ世界の形成に与えた影響を理解する。
- ・キリスト教世界の成立・発展とヨーロッパ諸国の形成との関係性を理解している。

3 単元(題材)の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
①「考える課題」に対して、グループのメンバーと協力して取り組んでいる。 ②導入の内容と考える課題を関連付けられている。	①地理的条件と歴史的事象を関連させて考えている。 ②西ヨーロッパ世界の形成過程について、諸勢力の関係性を文章で表現できる。 ③東ヨーロッパ世界の多様な性格について、地図から判断できる。	①現代の地図や当時の勢力図から、西ヨーロッパ世界や東ヨーロッパ世界の特色を読み取れる。	①ヨーロッパの地形や気候について理解している。 ②西ヨーロッパ世界の形成過程を理解している。 ③東ヨーロッパ世界の多様な性格について理解している。

4 指導観

(1) 単元観

学習指導要領内容とその取扱い (2)「近現代世界を理解するための前提として、ユーラシアの諸文明の特質に触れるとともに、16 世紀以降の世界商業の進展及び資本主義の確立を中心に、世界が一体化に向かう過程を理解させる。その際、世界の動向と日本とのかかわりに着目させる。」ア ユーラシア文明「自然環境、生活、宗教などに着目させながら、東アジア、南アジア、西アジア、ヨーロッパに形成された諸文明の特質とユーラシアの海、陸における交流を概観させる。」

学習指導要領に記載されているように、本単元では、ヨーロッパに形成された諸文明の特質を、16 世紀以降の世界商業の進展と資本主義の確立と関連付けて指導する。特に、ヨーロッパ世界の農業と世界商業の進展、キリスト教と世界商業の進展など、諸事象を関連させながら指導する。また、近現代のヨーロッパ世界を理解する前提として、民族紛争や宗教的対立にも大きく関わっているキリスト教世界の変容について、生徒の興味・関心を引きながら指導したい。

(2) 生徒観

世界史 A をより深く理解するために、地理とも関連させながら歴史と地理の関係性を考察させるなど、暗記科目で終わらない工夫が必要である。そこで、既習事項を活かしながら、生徒が主体的に活動できるようにしていきたい。

(3) 教材観

世界史 A の本単元は、ゲルマン系、ラテン系、スラヴ系やカトリック、ギリシア正教、プロテスタント

など、現在のヨーロッパに通ずる基礎が築かれた時代である。また、これらは地理分野とも関係が深い部分であり、社会科を総合的に理解するうえで重要となる単元である。教科書や資料集でも気候や民族の違いなどの特集が載っており、歴史の舞台ともなる自然地理への理解も深めていきたい。

農業の発展が十字軍遠征や中世都市の成立につながったことを題材に、三圃制農業やノーフォーク農法について取り扱うなど、農業と世界史との関連を図る。

5 年間指導計画における位置付け

学期	単元	指導目標	指導内容	評価
1	古代文明・アジア諸国	<ul style="list-style-type: none"> 古代文明が栄えた背景を考察させる。 アジア諸国の文化的特徴と政治の関連性について理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 古代文明の地理的特徴について 各アジア諸国の宗教などの文化的特徴と政治との関連性の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「考える課題」に取り組んでいる。 定期考査において知識・理解の定着度を測る。
2 (本時)	古代・中世ヨーロッパ世界と近代ヨーロッパ世界	<ul style="list-style-type: none"> 現代のヨーロッパ社会の基礎となる古代ギリシアから近代ヨーロッパの歴史を通して、世界が結びつく様子を考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> キリスト教世界の形成や大航海時代、宗教改革など、現代のヨーロッパを形作る出来事を中心に学習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「考える課題」に取り組み、単元を通じた問いを考えている。 定期考査において知識・理解の定着度を測る。
3	世界戦争と平和	<ul style="list-style-type: none"> 二つの世界大戦を中心に理解させ、国際政治の動向と平和の意義について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 19世紀後期から20世紀前半までの世界を扱い、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦についての理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「考える課題」に取り組み、単元を通じた問いを考え、自分の考えを書くことができる。 定期考査において知識・理解の定着度を測る。

6 単元（題材）の指導計画と評価計画（全9時間）

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準（評価方法）
第1時	ヨーロッパ世界の基礎ともなるローマ帝国の勢力範囲を把握する。	ローマ帝国の政治体制の変化を学ぶとともに、ローマ帝国の勢力範囲を地図上で確認する。	・エー①（白地図ワーク、定期考査）
第2時	・キリスト教世界の成立の背景を理解する。 ・現代まで残るローマの文化について学び、当時のローマの様子を知る。	・キリスト教成立について時系列で確認する。 ・世界遺産を中心に、ローマの文化を写真で確認する。	・エー②（定期考査）
第3時	ゲルマン人の移動とフランク王国の発展が、ローマ＝カトリックの成立・発展に与えた影響を考察する。	ゲルマン人の移動とフランク王国の成立・発展について資料集の地図で視覚的に確認し、ローマ＝カトリック教会の成立過程を時系列で学び、それぞれの関連性を考察する。	・イー①（ワークシート） ・エー②（定期考査）
第4時	フランク王国分裂後に現在の西ヨーロッパ世界の基礎が築かれたことを理解する。	地図から、フランク王国が分裂したのち現在のフランス・ドイツ・イタリアの範囲とほぼ同じになったことを確認する。	・アー②（ワークシート） ・ウー①（ワークシート）
第5時	ヨーロッパの封建社会について理解を深め、前時で学習した内容と関連させ、イギリスの王権が強い理由を理解する。	封建社会成立の背景と過程を整理し、前時の内容であるイギリスの王権が強い理由について再度考察する。	・エー②（定期考査）
第6時	2度の農業革命が十字軍遠征や中世都市の成立、産業革命の背景となることを考察する。	グループワークを中心に、ヨーロッパの農業の特徴への理解を深めるとともに、農業革命が与えた影響について考察する。	・アー①（グループワークの様子、ワークシート） ・イー②（ワークシート）
第7時	・ビザンツ帝国とイスラーム勢力との関係性を理解し、その結果ルネサンスへと発展することを考察する。 ・スラヴ人の移動と定住について整理し、東ヨーロッパ世界が多様な性格をもつ国家となっていることを考える。	・グループワークを中心に、ビザンツ帝国が果たした文化的役割とイスラーム勢力との関係性について、資料腫や教科書を読み解く。 ・現在の東ヨーロッパ諸国の地図を見て、スラヴ人の移動と定住が現代ヨーロッパに与えた影響を考える。	・イー③（ワークシート） ・ウー①（ワークシート）
第8時（本時）	封建社会の衰退について、十字軍遠征の失敗や中世都市の発展の結果を踏まえて考える。	・講義で十字軍遠征の過程や中世都市の発展について理解を促す。 ・グループワークにおいて、十字軍遠征の失敗や中世都市の発展の結果を踏まえて、封建社会の衰退について考える。	・アー①（ワークシート） ・イー②（ワークシート、定期考査）
第9時	第8時の続きとして、封建社会の衰退について考え、英仏百年戦争を中心に、イギリスやフランスが中央集権化する過程とドイツが分裂状態になる過程を理解する。	・講義で百年戦争の特徴を理解する。 ・グループワークで百年戦争を踏まえて、中央集権化と分権化について考える。	・イー②（ワークシート） ・エー②（定期考査）

第 1 0 時	中世ヨーロッパの文化について知り、現代まで残る世界遺産への理解を深める。	中世ヨーロッパの建築物の特徴を理解し、写真を見て何様式か判断できるようにする。	
------------------	--------------------------------------	---	--

7 指導に当たって

(1) 既習事項の定着とアウトプットする力の育成

知識の習得だけで終わらないように、アウトプットする力の育成を目的として、「考える課題」を活用して、生徒の思考場を増やしている。

(2) 授業中の配慮

スライドをスクリーンに投影することにより、聴覚優位の生徒だけでなく、視覚優位の生徒も授業を理解できるように配慮を心掛けている。

8 本時（全10時間中の第8時）

(1) 本時の目標

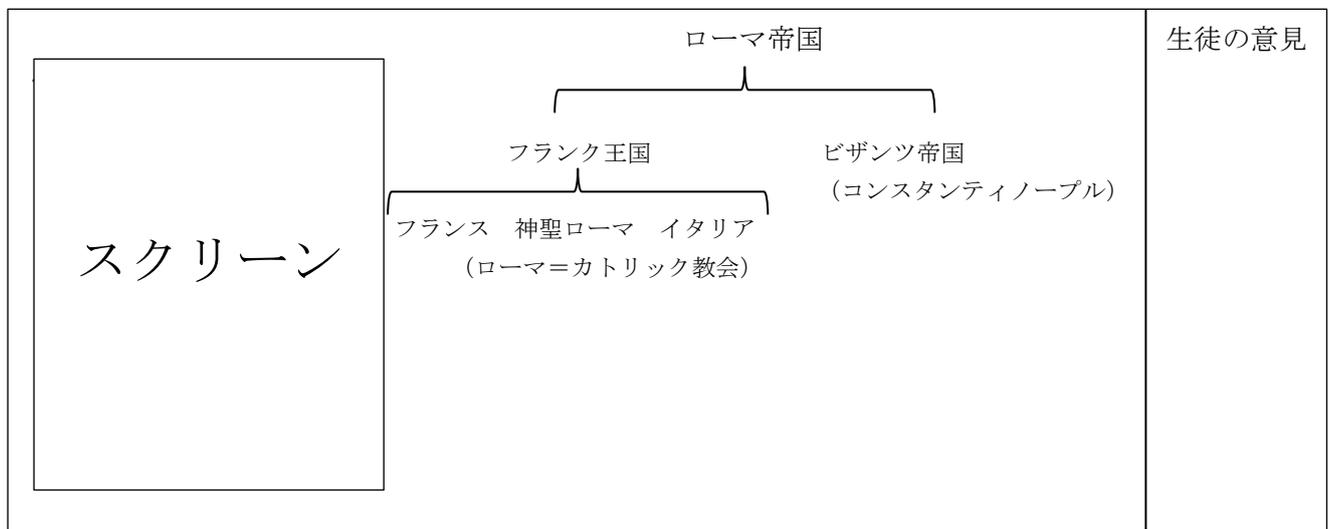
封建社会が衰退する要因について、十字軍遠征や中世都市の発展を踏まえて考える。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導 入 10 分	<ul style="list-style-type: none"> ・始業の挨拶をする。 ・出欠確認をする。 ○中世都市と産業について、ヴェネツィアの写真とグラスを見て、イメージする。 <ul style="list-style-type: none"> ・スライドの写真やグラスの現物を見て中世都市のイメージを膨らませる。 ○封建社会、中世農業革命の復習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれ、前回までのプリントを振り返りながら封建社会・中世農業革命についての問いについて、ワークシートに解答を記入する。 ・グループ単位で指名し、グループの代表者が解答する。 ・本時の目標を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員の机上が整理整頓されているかを確認する。 ・グラスは現物であるため、割れないように生徒に注意喚起を徹底する。 ・トランプを使いグループに分けて活動を行う。 ・机間指導により、作業が進んでいないグループの思考を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アー①（グループの様子を観察・ワークシートの内容を評価する）
展 開 ① 30 分	1. 十字軍の遠征 <ul style="list-style-type: none"> ○十字軍の原因が、キリスト教世界の主導権を握ることであることを理解する。 ○十字軍遠征の当初の目的は、エルサレムの奪回であったが、キリスト教世界の統一に向けて、徐々に変化したことを、十字軍の経過とともに理解する。 ・スライドを見て空欄に適語を記入する。 ・板書の内容を適宜プリントやノートに記入する。 ○「考える課題①」に取り組み、封建制度の崩壊過程について考える。 ・教科書 p. 47 を参考にして、(1)～(3)の課題に取り組み、その後それらを参 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドの写しは生徒の手元になく、流動的に授業が進むため、適宜板書をして授業の流れをつかみやすいように配慮する。 ・次の考える課題につながるように、国王や諸侯の権力の推移を強調する。 ・各グループの活動を机間指導において確認し、活動が 	<ul style="list-style-type: none"> ・イー②（ワークシートで評価を行うが、グループワーク中は評価を行わず、ノート回

	考に (4) の課題をグループで考える。その後、グループで統一の解答ができたら、教員から確認を受ける。	進んでいないグループに適宜助言を行い、思考を促す。	収時に確認する。)
展開 ② 10分	<p>2. 都市の発達と商人の活躍</p> <p>○中世農業革命や純粋荘園への変化を通して余剰生産物が生まれ、定期市や遠隔地商業が発達し、中世都市が成立した過程を理解する。</p> <p>○東方貿易で発展した代表的な都市について学び、中世都市のイメージを膨らませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドを見て空欄に適語を記入する。 ・板書の内容を適宜プリントやノートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドの写しは生徒の手元になく、流動的に授業が進むため、適宜板書をして授業の流れをつかみやすいように配慮する。 	

(3) 板書計画 (プリント・別紙スライド)



(4) 授業観察の視点

- ・授業の途中で前時の振り返りを行うことが基礎的・基本的な知識の習得に効果的であったか。
- ・読解力を育むうえで、考える課題のテーマ設定と授業途中のグループワークが適切であったか。